

富士工場



長野工場長



富士工場は、1959年に操業を開始して以来、順次規模を拡大しながら2009年に50周年を迎えました。かぐや姫伝説の象徴ともいべき霊峰富士の麓、海の幸が豊富な駿河湾を望む風光明媚なところに位置しています。製造にあたっては、富士山の地下水を有効に利用し環境に優しい製品作りに努めています。

62社73工場の製紙工場がある富士市では、大気汚染防止法の総量規制が定められ、当工場においても厳しい基準を遵守するため環境負荷の低減に努めています。また、宅地および農地に隣接しているため、特に漏洩および臭気の発生に留意しています。

2009年度は、世界規模の不況の影響があるなかでのスタートとなり、2008年度に比べ若干生産量が低下しましたが、積極的な省エネ活動の結果、原単位当たりのエネルギー使用量が前年度比約2%マイナスとなりました。将来は、より環境に優しい燃料への転換も図っていききたいと考えています。

ISO14001の環境管理システムを活用し、省エネルギー、環境負荷の低減、産業廃棄物の削減を継続的に改善し実施していきます。また、安全、防災に関する活動をより活性化させ、地域社会から信頼される工場を目指します。

所在地：静岡県富士市厚原366-1

設立：1959年12月

敷地面積：39,040m²

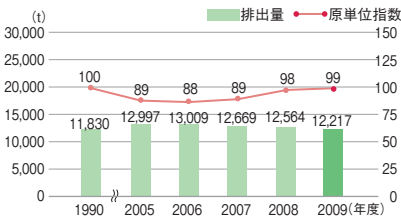
従業員：社員78名、協力会社員・パート32名

●環境パフォーマンス

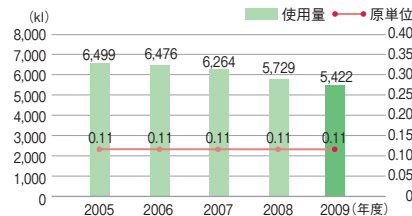
インプット	エネルギー	電力 (GWh)	6.5
		化石燃料 (千kl)	3.7
		合計 (千kl原油換算)	5.4
	水資源	水道水 (千m ³)	27.4
工業用水 (千m ³)		106.8	
地下水 (千m ³)		323.6	
原材料 (千t)		40.3	
アウトプット	大気への環境負荷	CO ₂ (千t)	12.2
		NO _x (t)	8.2
		SO _x (t)	1.1
		PRTR物質 (t)	9.7
	水域への環境負荷	COD (t)	9.4
		SS (t)	2.5
		排水 (千m ³)	214.8
		PRTR物質 (t)	0.0
	産業廃棄物	社内発生量 (t)	4,672.0
		工場排出量 (t)	712.0
うちPRTR物質移動量 (t)		0.0	
最終埋立量 (t)		296.0	
製品 (千t)		83.6	

●工場トレンド

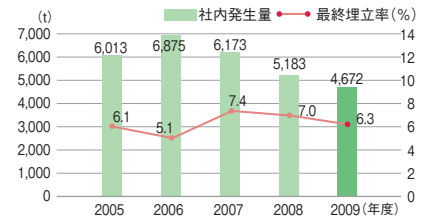
■CO₂ 排出量



■エネルギー使用量



■廃棄物発生量



私たちの 温暖化対策

週末にボイラーを止め、LPG使用量を削減

富士工場の各職場ではさまざまな省エネ活動を実施しています。その中から工務課環境保安係で行った省エネへの取り組みをご紹介します。

富士工場の蒸気は小型貫流ボイラーから、場内各職場に供給しています。従来、小型貫流ボイラーは、年間を通して24時間連続運転していました。製造しない週末にタンク保温だけのためにボイラーを動かし続けるのは無駄ではないかと考え、各職場の蒸気使用状況を調査した上で、関係者と協議し、製造のない土曜日の朝7時から日曜日の午後4時まではボイラーを停止することとしました。この間、タンク内温度は少しずつ低下しますが、製品出荷などに影響が無いことを確認し、段階的に実施しました。小型貫流ボイラーの停止や立ち上げ作業には手間はかかりますが、週末にボイラーを止める事で、燃料LPGを年間使用量の5.4% (約

96t) 削減することができました。

また、窒素ガス発生装置の週末運転についても見直し、年間0.2% (約1.2MWh) の電力削減ができました。省エネは誰にでもできる活動です。最初は小さなひらめきでも、継続することで大きな省エネになっていきます。



紹介者：三嶋 文樹



週末の運転を停止した貫流ボイラー